

## 令和3年度

### 第7回草津市都市計画マスタープラン策定委員会 会議録

■日時：

令和3年8月4日（水）14時～15時

■場所：

草津市役所4階 行政委員会室

■出席委員：

伊庭委員、麻植委員、北村委員、黒澤委員、佐山委員、清水委員、  
壽崎委員、塚口委員、宮下委員、宮本委員、山本委員

■欠席委員：

飯田委員、酒井委員、中谷委員、中野委員

■事務局：

松尾部長、一浦副部長、竹中課長、梅原係長、山本主任

■傍聴者：

なし

#### 1. 開会

---

【一浦副部長】

委員の皆様におかれましては、御多忙の中御出席いただきましてありがとうございます。

本日は、皆様に御議論いただく最後の委員会となります。これまで御議論いただきました都市計画マスタープランにつきまして、本日、答申案として御確認いただきたいと思います。各委員の立場から答申案に対する御意見を広くいただきたく思います。委員の皆様におかれましては、これまで同様に活発な御議論をお願い申し上げまして、簡単ではございますが、開会の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

#### 2. 検討事項

---

【事務局】

<資料1について説明>

**【塚口委員長】**

現時点で御意見は無いようなので、全体を通して後ほど承る。

**【事務局】**

<資料2、3、4について説明>

**【委員】**

目標の達成に向けた取組について、必要に応じた制度や事業の見直しとあるが、どれくらいの頻度での進行管理や見直しを計画されているのか、またこの部署が主体となっていくのか、見直した結果、問題があった場合は委員会を招集して行うのか等、分かる範囲で教えていただきたい。

**【事務局】**

進行管理について、都市計画課が主体となって、関係部局と共に施策の進捗状況を確認する。頻度については、現行の都市計画マスタープランについては3年に1度確認していたが、新型コロナウイルス感染症の様に1年で大きく状況が変わることが想定されるため、毎年度確認する方向で考えている。その中で見直しが必要と判断した場合に、市単独で見直しを行うのではなく、専門的・総合的な意見をいただいた中で見直すことができる体制を検討する必要があると考えている。

**【委員】**

施策の進行状況の確認について、確認の方法が大切であると思う。何%達成したかなど、見直す際には詳しくやっていただきたい。また、見直し方法について、委員会を開くのは難しいと思うため、WEB会議を開いてはどうか。距離の問題等が解消されるだけでなく、市民の意見を広くいただくことも可能となるため、評価や見直しにITの導入をご検討いただきたい。どのように見直してどのように計画したか、わかりやすく市民に情報伝達していただきたい。

**【事務局】**

進行管理と見直しの方法について、もう少し具体的にお示しできるよう検討させていただく。情報の発信については、目標の達成に向けた取組や都市づくりの理念に示しているICTの活用も踏まえながら、よりわかりやすく情報共有させていただけるように考えていきたい。

**【委員】**

多様な主体による持続可能な都市づくり体制の構築について、市民主体の都市づくりとあるが、市民といっても多様な方がおられる。バリアフリー法の場合だと、障害を持った方

が都市づくりに参加するという考え方があるが、都市計画マスタープランにはないのか。また、地域のまちづくりの長をされている方に女性が少ない印象を受ける。女性のまちづくりへの参画についてはどう進められているか。

**【事務局】**

多様な皆様に参画していただくということに加え、当事者としての意見も重要であることから、参画に関する書きぶりについては検討させていただきたい。

**【委員】**

計画の進行管理をどう行っていくかが命題かと思う。概ね5年ごとに見直しを行うとあるが、見直しの方法がぼんやりしている。市の担当者は人事異動等があるため、毎年再確認するという意味も見直しに含められると、骨太の計画となっていくのではないか。

また、毎年行う見直しと5年に一度行う見直しにおいて、見直し内容の強弱をつけてはどうか。強弱を付けることによって、市の内部の意見だけではなく、市民等の外部の意見が取り入れられた計画の見直しができると思う。宮本委員がおっしゃった多様な方の参画という意見について、協働のまちづくりは草津市の根本であるため、計画の見直しだけでなく、計画の実行の手立てにも反映するよう検討いただきたい。

**【事務局】**

まずは毎年進行管理をしっかり行い、施策が実行できていなくてもすぐ見直すのではなく、社会潮流が大きく変化したタイミング等、適宜必要な時期に見直しを行うといった書きぶりにさせていただきたい。

**【委員】**

草津市のホームページにおいて、計画の見直し評価等の市民に向けた発信システムはあるか。

**【事務局】**

総合計画等の施策の目標値を設定する計画については、数値による評価を実行しており、市民の皆さんに分かりやすく説明させていただいている。都市計画マスタープランはあくまで都市づくりの方針であるため、これまでの施策の進行管理は行うが、指標による評価は行わない。

**【委員】**

まちづくり活動の拠点の充実とあるが、具体的にどんなことを想定されているのか。また、必要に応じた制度等の柔軟な見直しとあるが、市街化調整区域の中では50戸連た

んの開発が健全な土地開発の妨げになっていると思われる。そういった問題になっているものについて、早急に見直す準備や取組はなされているのか。

**【事務局】**

まちづくり活動の拠点の充実について、地域まちづくりセンターの指定管理を委託させていただき、地域が主体となって動ける体制にしていることや、地域まちづくりセンターの更新を計画的に行っていることが、充実と書かせていただいている根拠である。

50 戸連たんについて、開発によって草津市内の人口が増えて活力があると皆さんから評価いただけている一方で、心配されているように接道部分のみが開発されており奥の土地利用ができないという課題がある。どういった解決方法が取れるか検討しているが、地域の皆さんの思いに応えられるような方策は見つかっていない。課題は共有させていただいているということで御理解いただきたい。

**【委員】**

P D C A サイクルの図について、プランのところに計画の策定とあるが、計画を策定するのは初めの一度だけであるため循環することに少し違和感がある。

**【事務局】**

見方によって変わるかと思うが、20 年のサイクルを表しており、アクションのところで見直しが必要になったら策定を行うという解釈である。分かりやすいよう本文の書きぶりを検討させていただく。

**【委員】**

図の書き方が少し違っているかもしれない。

**【事務局】**

後ほど委員長と相談させていただく。

**【委員】**

産学官金の連携とあるが、上手くいっている先例等があつて金融機関という新しい概念を入れられたのか。

**【事務局】**

産学官金とは経済産業省で示されている定義であり、例えば奈良県における信用金庫と企業と行政が連携した産業の振興というような事例も示されている。こういった事例を踏まえながら、従来の資金の供給ではなく、まちづくりに主体的に参画していただくという趣

旨で書いている。

**【委員】**

産学官金の連携という言葉があるのは悪くはないが、市民が重要となるため産学官金民としてはどうか。

**【事務局】**

項目の順番として、産学官金の連携が一番初めにあり、その次に市民主体の都市づくりとなっているが、最優先である市民主体の都市づくりを一番初めにもってくることで対応させていただく。

**【委員】**

目標の達成に向けた取組について、庁内の関係する部局と本計画を共有・調整するとともに、横断的な連携や柔軟な取組が可能となる庁内連絡体制の充実を図るとあるが、市民目線で考えると、市役所は一つの組織であり庁内の横の連携は取れているものだと思われるため、表現を変えた方がよい。

**【事務局】**

取組が可能となるではなく、さらに推進するという意味合いの表現に修正させていただく。

**【委員】**

目標の達成に向けた取組について、財源の確保とあるが、この計画を絵に描いた餅にしないために、財源の確保と道路インフラを中心とした都市基盤の整備が重要だと思う。関係する課が多岐にわたるため難しいかと思うが、しっかり調整をしていただきたい。

**【委員】**

委員名簿について、草津商工会議所、草津市社会福祉協議会が正しい名称であるため、訂正いただきたい。

**【委員】**

5章は市民の皆さんが最も関心がある章であると思われるため、今回の御意見を踏まえてブラッシュアップしていただきたい。

今回が最後の委員会ということで、答申に向けたとりまとめについては委員長と事務局で対応していくということによろしいか。

【各委員】

異議なし。

### 3. 閉会

---

【松尾部長】

令和元年度の7月30日に第1回の委員会を開催いたしまして、7回という回数の会議をしていただきました。委員の皆様には、御議論を重ねていただきましてありがとうございました。本委員会につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により開催時期が大幅に遅れたりオンラインでの開催となったり、大変御迷惑をおかけしたことをお詫びさせていただきますと思います。今までの草津市の都市計画マスタープランは、常に人口が増加する想定の中で策定してまいりましたが、今回は目標年次までに人口減少局面を迎えるという課題を考慮する必要がありました。そのような難しい課題を抱えた中での議論となりましたが、委員の皆様の前を向いて熱心に考えていただき感謝しております。まさに次世代につなぐ都市計画マスタープランになったと考えています。2年間お世話になりましたが、今後も引き続き行政全般の推進のため、それぞれの立場から御協力いただきたいと思います。ありがとうございました。

以上